ジオパーク講演会in深浦町開催！

深浦町で「菅江真澄」の講演会を開催しました！

講演者の永井登志樹氏。
質疑応答も行いました。

2月18日（日）に深浦町ふれあいと創造の館で「菅江真澄の記録したジオの景観」と題して講演会を開催しました。当日は大雪となりましたが、深浦町、八峰町から40人が参加しました。

★菅江真澄（すがえますみ、1754～1829）は江戸時代の紀行家、博物学者。三河国（現在の愛知県東部）に生まれた。秋田県や青森県などを旅行し、旅先の土地の民族習慣、風土、宗教から自作の詩歌まで数多くの記録を残した。著作は200冊以上に及び、89冊が国の重要文化財に指定されている。

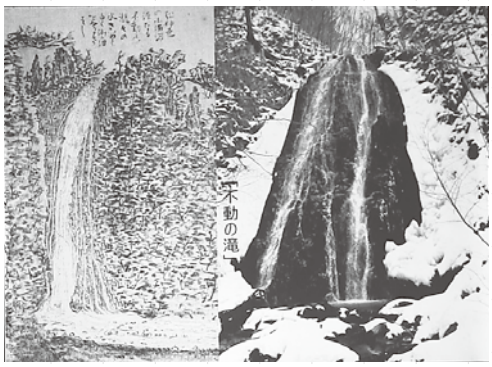
講師は菅江真澄研究会副会長の永井登志樹氏が務め、菅江真澄が記録した深浦町から八峰町までの図絵について紹介・解説しました。また、会場では八峰町の湧水「お殿水」を使用したカフェコーナーを設け、参加者に楽しんでいただきました。

「またこういう機会があれば来たい」という参加者もおり、深浦町でも菅江真澄に対する関心は高いようでした。

菅江真澄の魅力

菅江真澄は深浦町や八峰町を海岸沿いに旅行し、各地で風景や風土を描いた図絵を記録しています。講演では、菅江真澄が残した図絵と、同じ場所だと思われる現在の写真を見比べながら風景や地形の特徴について解説しました。

深浦町には1907年に地震によって隆起した千畳敷や、地すべりによって形成された十二湖など大地の動きがつくりだした景観を観察できる場所があります。永井氏は「彼が記録した図絵は、その土地ならではの特徴ある地形や岩石の様子が良く描かれており、その意味で元祖ジオガイドといってもいいかもしれない」とまとめました。



菅江真澄が描いた「不動の滝」（左）
と現在の写真（右）

八峰町の菅江真澄の足跡

菅江真澄は晩年を秋田県で過ごし、県全域にくまなく足跡を残しました。そのため、菅江真澄は特に秋田県内で知名度が高く、記録が残る各地で石碑や看板が建立され、教育や観光に活用しようという動きもあります。

また、秋田県立博物館には菅江真澄資料センターがあり、資料の展示や研究を行っています。

八峰町へも訪れており、「雄島」や「手這坂」など多くの場所で記録を残しています。例えば、手這坂に立ち寄った時には、集落に咲き乱れる桃の花を見て「桃源郷」のようだと、紀行文『おがらのたき』に記録を残しています。桃の花は現在も残っており、手這坂では当時の光景を想像することが出来ます。

また、「椿の浦」（椿海岸）では海側に厠（かわや）（トイレ）が立ち並ぶ図絵が描かれており、現在と江戸時代との対比も興味深いものとなっています。菅江真澄の足跡をたどることで地域の魅力を再発見できるかもしれません。

椿海岸に設置された標識板。
当時の海岸の様子が分かる。

八峰白神ジオパーク推進協議会
地域おこし協力隊 三輪 拓磨
〒018-2632
秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四-一
ぶなっこランド内
TEL 0185-77-3086